

平成30年度 富山第一高等学校 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓の「剛健」「練体磨心」を基本理念に、知・徳・体、調和のとれた人材を育てる。

- (ア) 心身ともに強く健康で、学力・品格ともに備わった人材を育成する。
- (イ) 課外活動を含め、学校生活を通じて社会性と豊かな人間性を育む。
- (ウ) 生徒個々の能力・適性に意を用いた指導を行い、目指す進路を実現する。

2 学校の特徴

本校は昭和34年に設立された。すでに3万人以上の卒業生を輩出しており、県内外で活躍している。今春60回目の入学式を、505名の新入生を迎えて挙行了した。全校生徒は1418名(4月9日)となり、40クラスを擁する大きな規模の学校となった。

本校には「総合コース」「特別進学コース」「美術コース」の3つのコースがある。生徒の学力・適性だけでなく、生徒個々が充実した高校生活を送るため、また将来の夢実現のためにどうあるべきかを念頭にコース選択が行われており、その生徒を全面的にバックアップするよう教職員は教育実践を行っている。

本校の校訓である「剛健」は心身ともに強くたくましいことを表している。日本の将来を担う青年に必要なものは剛健の精神であるという思いがある。しかし本校がまず生徒に求めることは、ごく当たり前のことで、1、笑顔を持って挨拶ができること、2、遅刻などせず、約束の時間を守れること、3、周りに不快感を与えないようしっかりと身だしなみであること、この3つである。これらは人が生きていくに欠くべからざるものである。その上で学習、部活動、学校行事に力いっぱい取り組んでくれることを期待している。日本の将来を担うには、豊かな人間性が求められるはずである。そのためにこの3つに全力で取り組ませたいと考えている。

本校を広く知らしめているのは、部活動の活躍である。昨年度も多くの運動部が全国大会に出場している。さらに近年、文化部の活躍がめざましい。放送演劇部、自然科学部、情報クリエイト部、文芸部、写真部、新聞部、吹奏楽部、美術部などである。部活動を通して学校全体に活気が出ている。

3 学校の現状と課題

毎年80名前後の生徒が就職を希望している。就職ガイダンス等を通して働く意義を教えている。卒業時には全員が就職先が決定している。

それ以外の生徒は進学を希望している。本校生はその生活面においては、素直・誠実といえるが、学習への意欲・関心においては十分ではないといわざるを得ない。学習に自ら計画を立て、主体的に取り組んでいるかということそうではない。結果的に当初の目標(第1志望)を下げる生徒が少なくない。生徒自らの責任において自らの目標を達成できるような支援を行い、充実した高校生活を送ってほしい。この支援を本校の課題とし、その対策に取り組みたい。

4 本年度の重点目標

- (ア) 学習・部活動・学校行事3つをすべて一生懸命取り組ませる。
- (イ) 生徒の目標(第1志望)を実現させるための教育活動を行う。
- (ウ) 生徒の主体的な活動を支援し、豊かな人間性を育てる。

5 本年度の重点課題(アクションプラン)

1 学習活動

目標	自学自習を習慣づけ、生徒全体の学力向上を図る
方策	・定期考査ごとに成績不振者に対し、理解不足解消、学習への関心向上を狙い補習等を行う。その補習に教科担当者の協力も求める
中間評価	定期考査後、成績不振者への補習を学年・教科担当者の協力を得て行えた 振り返りシートを活用して、日頃の学習活動を見直し、不振科目についての目標や学習計画を立てさせ、学習意欲を向上させることができた

2 教科指導

目標	教育改革(高大接続改革)に対応した教科指導力向上を図る
方策	・大学入学共通テスト(2020年開始)導入による高大接続改革の狙いと意義を教員が正確に理解そして共有し、入試制度改革に対応した教科指導を行う ・大学入学共通テストのプレテスト問題(2017・2018年度実施)を各教科全教員がその出題傾向また出題の狙いを理解そして共有する
中間評価	29年度の大学入学共通テストのプレテスト問題を教員が解き、問題分析・出題傾向把握・対策を各教科で行った

3 生徒指導

目標	公共交通機関利用マナーの向上及び自転車運転ルールの徹底
方策	・「高校生さわやか運動」期間中に乗車マナーの指導を行う ・学年集会、「学年通信」などを通して注意を喚起する ・校前指導を毎朝行う ・交通安全指導の日(1日・15日)に、通学路に出向き指導を行う
中間評価	上記の方策は計画通りに実施できた 引き続き指導を行いたい

4 生徒会活動（特別活動）

目標	望ましい集団活動を通して、主体的・実践的な態度を育成する
方策	・ 体育大会や文化祭などの学校行事の中で生徒が役割分担をし、それぞれの個性を生かし活躍できる取り組みを行う ・ 学校や地域の一員としてのボランティア活動などに主体的に参加し、自分らしさを発揮し貢献できるような取り組みを行う
中間評価	地域清掃活動、高校生さわやか(挨拶)運動に参加するなど、生徒会活動を活発にした 生徒会長のリーダーシップのもと、学校行事に自主的・積極的に関わることができた

5 保健指導

目標	生命を尊重し、安全な学校生活を送る
方策	・ 1年生に救急救命講習を実施する ・ 養護教諭が教職員を対象に、食物アレルギーの基礎知識と対応についての講習会を開催する
中間評価	適宜「保健だより」を発行し、建康に対する意識づけを行った 上記の方策は年度後半に実施予定であるが、年間を通して安全に対する意識を高めるよう努めたい

6 図書館活動

目標	「朝の読書」を継続的に実施し、図書館行事などを通して読書習慣の定着を図る
方策	学年、教科と連携、協力して学校図書館の活用を生徒に勧め、活字に親しませる（年間貸出冊数3500冊を目標とする）
中間評価	2・3年生の貸出冊数が伸びない 「朝の読書」の取り組み方に工夫が必要である

7 環境教育

目標	清掃活動を通じて集団生活を意識し、協調性を育成する 身の回りの環境整理を通して、清潔な状態を保とうとする態度を育成する
方策	・ 学校行事前に清掃活動を行う ・ 美化委員会活動の指導 黒板クリーナ内フィルター清掃（毎月末） 清掃担当区域の清掃道具点検及び整備（4月・6月・11月） 除草（5月・10月）
中間評価	朝の清掃活動は定期的に行われている 毎月の黒板クリーナ内フィルター清掃が徹底されていない

8 進路支援

目標	生徒に有効な情報提供を行い、進路目標実現へ向けた適切な指導を行う
方策	<ul style="list-style-type: none">・各種学校説明会や来校訪問で受けた重要事項を、校内LAN活用を含め、閲覧しやすい環境を作る・各種学校から送付されてきた資料を直接配布する・各学年の特性に応じた適切な情報を配信する<ul style="list-style-type: none">1年：2年次に選択する文系・理系の情報2年：進学分野や学部・学科内容を理解するための情報3年：志望校をできるだけ早く決定できるような情報・生徒の進路志望調査をもとに、複数の教員が共通理解を持ち進路実現につながる指導を行う
中間評価	必要な情報提供が適宜行えた この後の課題はその情報を生徒の指導に十分生かせるかどうかである

9 情報発信

目標	ホームページとメールで教育活動の情報を適切に発信する仕組みを充実させる
方策	<ul style="list-style-type: none">・体験入学、部活動体験会、学校説明会などの情報を発信する・中学校や受験生に本校の入試情報を提供し、理解を得る・写真やコメントを通じて学校生活、海外研修などの学校行事を紹介する・部活動の情報をリアルタイムで紹介する・天候不順などの緊急時において、学校の対応を即時に伝達する・近隣の不審者情報を発信する
中間評価	ホームページを通して関係者・関係機関への情報提供がほぼ遅滞なく行えたが、緊急時の対応についてはさらに検討が必要と考えている